

Ⅱ：分担研究報告

研究 4

全国の児童自立支援施設における薬物乱用・依存の意識・実態に関する

研究

全国の児童自立支援施設における薬物乱用・依存の意識・実態に関する研究

分担研究者：庄司正実（目白大学人間学部）

研究協力者：宇佐見兼市（国立武蔵野学院）青木 健（国立武蔵野学院）

【研究要旨】

【目的】本研究の目的は薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物の実態を継続的に把握し、青少年特に非行児の薬物乱用に対する予防・治療教育の基礎資料を得ることである。

【方法】全国の児童自立支援施設に入所中の児童に無記名式質問紙調査を実施した。有効調査人数は 826 人(男性 618 人、女性 208 人)であり、施設回収率は 71.9%であった。

【結果】

- 1) 有機溶剤乱用者数は男 23 人(3.7%)女性 26 人(12.5%)、大麻乱用者数は男性 10 人(1.6%)女性 9 人(4.3%)、覚せい剤乱用者数は男性 3 人(0.5%)女性 7 人(3.4%)、ブタン乱用者数男性 25 人(4.0%)女性 11 人(5.3%)であった。その他、睡眠薬乱用者が男性 9 人(1.5%)女性 21 人(10.1%)、抗不安薬乱用者が男性 8 人(1.3%)女性 16 人(7.7%)、ブロン(咳止め液)乱用が男性 3 人(0.5%)女性 7 人(3.4%)、危険ドラッグは男性 2 人(0.3%)および女性 2 人(1.0%)に認められた。従来の結果と同様にほとんどの薬物にて女性は男性より乱用頻度が高かった。
- 2) 1994 年度からのおもな薬物乱用頻度の変化は以下のとおりである。有機溶剤乱用はこれまでと同様に減少傾向を示した。特に男性においてこの傾向が著しく、1994 年 41.2%から 2006 年以降 10%前後に減少し前回 3.3%で今回 3.7%であった。女性でも 1994 年 59.6%から 2006 年以降 30%となっていたが、前回 17.2%今回 12.5%となった。覚せい剤乱用は男女とも 2000 年ころまでやや増加傾向にあったが、2002 年以降減少傾向を示しており、男性は 2006 年以降 1%以下で今回 0.5%、女性は 2008 年以降 10%以下となっていたが今回は 3.4%とわずかに増加した。大麻乱用頻度について、男性は 4%から 5%前後であったが 2010 年以降 2%ほどであり今回も同様に 1.6%であり、一方女性では 1994 年(22.0%)および 1996 年(19.0%)はやや高かったが 1998 年から 14%から 15%台となり前回 3.3%今回 4.3%と 10%以下となっている。
- 3) 薬物乱用に対する態度は、許容的態度をしめす者が男性では 2%から 4%、女性では 10%から 25%見られ、女性では特に医薬品乱用に対しては許容的傾向であった。入所非行児の非行歴を検討した結果では非行程度がやや軽度化している傾向が示唆された。

【考察】児童自立支援施設入所児童は薬物乱用のハイリスクグループであるが、児童の乱用薬物が従来のように有機溶剤中心ではなくなっていることを示している。今後とも継続的に実態を把握していくことが必要である。

A. 研究目的

われわれは、1994年度より2016年度まで隔年ごとに児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用の実態を全国調査してきた^{1)・11)}。その結果、有機溶剤乱用者は男女とも低下してきており特に男性における低下が顕著であるという結果が得られている。また、覚せい剤乱用は男女とも2000年ころまで増加傾向にあったが、2002年以降減少傾向を示していた。大麻乱用頻度について男性は2008年までは4%から6%前後でありその後は1%から2%、女性では2010年までは10%から20%みられたが2012年以降は数%で続いている。その一方で睡眠薬や抗不安薬などの医薬品乱用が特に女性では2016年調査で10%前後と多く認められていた。

これら各種薬物の非行少年における乱用実態を継続的に把握し今後の薬物乱用対策に資することが本研究のおもな目的である。薬物乱用では実際に検挙されず暗数となっている乱用者が多く、特に入所女子非行児では依然薬物乱用問題は重要な位置を占めており、非行児の実際の薬物乱用状況を知ることはどうしても必要である。

児童自立支援施設入所非行児における薬物乱用の動態の変化は薬物乱用検挙少年者数動向と類似している。警察庁統計によれば2017年に覚せい剤事犯で送致した少年は91人、大麻事犯で検挙した少年は297人であった¹²⁾。有機溶剤乱用は1990年代初め2万人以上が検挙されていたが、現在激減しており、平成29年の少年検挙数は9名にすぎなかった。

このような検挙数の変化が、実際の非行臨床場面における薬物乱用に反映しているかどうかを把握することは非行臨床の実践にとっても重要である。

本調査では、2016年に引き続き児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用実態を調査することにより薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物乱用の動態を把握する。おもな調査対象薬物は、

われわれの従来調査の結果と比較できることおよび他の調査研究や司法統計資料と比較検討できることより有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタンとしたが、その他の薬物についても簡単に乱用経験および周囲の乱用状況を尋ねる質問項目を追加した。

B. 研究方法

1. 対象

全国の57の児童自立支援施設入所児童に調査用紙を配布した。回答が得られた施設は、41施設であった(施設回収率71.9%)。分析では性別の記載のなかった者を除いた。その結果最終的調査対象者数は826人(男性618人、女性208人)となった。

2. 調査用紙

調査用紙は資料に示した。調査項目は、薬物乱用関連項目、薬物以外の非行関連項目、性格検査項目、一般個人属性などである(資料参照)。調査が今後も同一施設に継続的に実施できるよう、なるべく被調査施設および被調査者の負担にならないように留意した。前回より調査項目を減らし、また回答者である児童にとって見やすいようなレイアウトでふりがなを振り回答に負担がかからないように配慮した。

3. 調査手続き

調査用紙は各施設に郵送し、施設ごと集団で実施してもらった。終了後施設ごと一括して返送してもらった。回答用紙は無記名式である。調査については目白大学倫理審査会の審査を受けた。回答は強制ではなく回答したくない場合は回答しなくてもよく、また回答しなくても不利益は被らないことを説明し実施した。

C. 研究結果

1. 対象者の属性

対象者の、性・学年構成、性・年齢構成、施設入所期間、地域別人数、非行歴、初発非行年齢、家庭裁判所係属歴を表1から表7に示した。

性別にみると男性が618人で全体の74.8%を占めている。就学状況は、中学3年生が男性259人(41.9%)、女性が87人(41.8%)と最も多い(表1)。中学生が多いが、高校生および専門学校生が男性19人(3.1%)、女性9人(5.2%)いた。中学卒業後で無職である者も男性15人(2.4%)、女性8人(3.8%)いた。そのほか小学生が男女それぞれ64人(10.3%)、15人(7.2%)いた。就労者は男女含め3人いた。年齢で見ると中学2年および3年に相当する14歳および15歳が男性でそれぞれ34.3%、25.2%、女性で37.5%、25.0%と多くを占めていた。一方、18歳以上の者は男性1人女性2人であった(表2)。

施設入所期間は、最も多いのは期間6ヶ月から1年で男性143人(23.1%)、女性51人(24.5%)であった。また入所初期の3ヶ月以下の者が男性99人(16.0%)、女性51人(24.5%)であった。一方、2年以上入所している者が男性17人(2.8%)、女性5人(2.4%)いた(表3)。

在住地は、施設の所在地により北海道・東北、関東、中部、関西、中国・四国、九州・沖縄に分けた。国立2施設については児童本人の居住地を確認していないため在住地不詳とした。最も人数の多かった地域は関西(男性158人、女性60人)であり、また調査対象数が最も少なかったのは東北・北海道(男性55人、女性25人)であった(表4)。

非行歴に関しては多いものから順に、男性では怠学365人(59.1%)、傷害352人(57.0%)、家出・外泊341人(55.2%)、金品持ち出し315人(51.0%)、窃盗309人(50.0%)、女性では家出・外泊172人(82.7%)、怠学157人(75.5%)、窃盗116人(55.8%)、金品持ち出し113人(54.3%)、家庭内暴力112人(53.8%)などとなっている(表5)。

初発非行年齢は、男女とも小学校3年から中

学校1年で10%台でありほぼ一定である(表6)。

家庭裁判所への係属歴は、やや男性が多く、男性115人(18.6%)、女性23人(11.1%)である(表7)。

2. 薬物乱用の頻度

調査対象薬物は前回2016年調査と同じく有機溶剤、ブタン、大麻、覚せい剤、コカイン、睡眠薬、抗不安薬(安定剤)、咳止め液、MDMA、リタリン、危険ドラッグである。入所非行児の薬物乱用は女性に多く性差があるため、男女別に検討した。

1) 周囲の薬物乱用頻度(表8)

児童達の交友関係など周囲に各種薬物乱用者がいるかどうか尋ねた。その結果、すべての薬物で女性は男性よりも周囲の薬物乱用頻度が高く、これまで通りであった。

男性では、有機溶剤61人(9.9%)、ブタン42人(6.8%)、大麻38人(6.1%)、覚せい剤35人(5.7%)、抗不安薬28人(4.5%)、咳止め液28人(4.5%)、睡眠薬26人(4.2%)、危険ドラッグ12人(1.9%)、コカイン10人(1.6%)、リタリン4人(0.6%)、MDMA2人(0.3%)の順であった。

女性では、大麻50人(24.0%)、睡眠薬50人(24.0%)、有機溶剤45人(21.6%)、覚せい剤39人(18.8%)、抗不安薬37人(17.8%)、ブタン32人(15.4%)、危険ドラッグ22人(10.6%)、コカイン21人(10.1%)、咳止め液9人(4.3%)、MDMA7人(3.4%)、リタリン6人(2.9%)の順であった。

2) 周囲の薬物乱用による精神症状発現者(表9)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬/抗不安薬・危険ドラッグの6つについて、身近に使用していて病気や異常になった人がいたかどうか尋ねた(表9)。「いた」「いない」の2件法である。

その結果、男性の周囲で薬物による症状は、有機溶剤17人(2.8%)、睡眠薬16人(2.6%)、覚

せい剤 15 人(2.4%)、大麻 9 人(1.5%)、ブタン 8 人(1.3%)、危険ドラッグ 7 人(1.1%)であった。

一方女性の周囲で薬物による症状は、睡眠薬 22 人(10.6%)、覚せい剤 18 人(8.7%)、大麻 17 人(8.2%)、危険ドラッグ 15 人(7.2%)、有機溶剤 14 人(6.7%)、ブタン 10 人(4.8%)であった。

3) 周囲からの薬物乱用の誘い(表 10)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬/抗不安薬・危険ドラッグを誘われたことがあるかどうかを尋ねた。「ある」「なし」の 2 件法である。

男性で誘われた薬物は、有機溶剤 27 人(4.4%)、大麻 26 人(4.2%)、ブタン 21 人(3.4%)、睡眠薬 14 人(2.3%)、覚せい剤 10 人(1.6%)、危険ドラッグ 5 人(0.8%)の順であった。

一方女性では、有機溶剤 28 人(13.5%)、大麻 25 人(12.0%)、睡眠薬 22 人(10.6%)、覚せい剤 16 人(7.7%)、ブタン 15 人(7.2%)、危険ドラッグ 9 人(4.3%)の順であった。

4) 薬物の入手性(表 11-1、11-2)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬/抗不安薬・危険ドラッグの 6 薬物について、入手がどの程度可能であるか尋ねた。「簡単に手に入る」「何とか手に入る」「ほとんど不可能」「絶対に不可能」の 4 件法である。

このうち「簡単に手に入る」としたものは、男性ではブタン 21.7%、有機溶剤 10.7%、睡眠薬 9.8%、大麻 5.6%、覚せい剤 4.3%、危険ドラッグ 3.2%であった。

一方女性では、ブタン 28.9%、睡眠薬 29.2%、有機溶剤 24.1%、大麻 15.3%、覚せい剤 10.6%、危険ドラッグ 7.9%であった。

5) 本人の薬物乱用頻度(表 12)

本人の薬物乱用もほとんどの薬物において女性は男性より頻度が高かった。

男性では、乱用頻度が高い順に、ブタン 25 人(4.0%)、有機溶剤 23 人(3.7%)、大麻 10 人(1.6%)、睡眠薬 9 人(1.5%)、抗不安薬 8 人(1.3%)、覚せい剤 3 人(0.5%)、咳止め液 3 人(0.5%)、危険ドラッグ 2 人(0.3%)、MDMA 1 人(0.2%)、コカイン 1 人(0.2%)であった。リタリンは該当者がいなかった。

女性では、乱用頻度が高い順に、有機溶剤 26 人(12.5%)、睡眠薬 21 人(10.1%)、抗不安薬 16 人(7.7%)、ブタン 11 人(5.3%)、大麻 9 人(4.3%)、咳止め液 7 人(3.4%)、覚せい剤 7 人(3.4%)、MDMA 1 人(0.5%)、危険ドラッグ 2 人(1.0%)、コカイン 2 人(1.0%)であった。リタリンは該当者がいなかった。

各薬物とも無回答者がいたため乱用頻度の少ない薬物では結果の信頼に問題がある。

6) 飲酒歴(表 13、表 14)

2010 年調査より飲酒歴についても確認することとしている。飲酒経験は、男性では 188 人(30.4%)、女性では 123 人(59.1%)であった。飲酒頻度は男性では 1 年で数回とした者(76 人;12.3%)がやや多いが、女性ではほぼ毎日(38 人;18.3%)とした者が多く、女性のほうが飲酒していた。飲酒開始年齢は、男女とも中学校 1 年生がそれぞれ 30%以上、25%以上であり最も多かった。

7) 喫煙歴および喫煙への態度(表 15、表 16、表 17)

喫煙歴についても 2010 年調査より調査項目とした。喫煙歴は男性 192 人(31.1%)、女性 98 人(47.1%)であり、女性のほうが頻度が高かった。喫煙は、飲酒と異なり経験者では使用頻度はほぼ毎日とする者が男女とも最も多かった。男性の 98 人(15.9%)、女性の 58 人(27.9%)が毎日喫煙をしていた。喫煙開始年齢は、男女とも中学校 1 年生がほぼ 30%以上で最も多かった。

法律による未成年の喫煙禁止については、「す

べきではない」「少々ならかまわない」「かまわない」で尋ねた。男性では「かまわない」および「少々ならかまわない」という許容的回答をした者は、男性ではそれぞれ 74 人(12.0%)、107 人(17.3%)、女性ではともに 56 人(26.9%)であった。

8) 有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタンの乱用頻度の年代変化(表 18-1、18-2)

有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度について、1994 年から今回 2018 年調査までの隔年調査結果を表にまとめた。ブタンは調査開始の 2000 年からの結果を示した。

有機溶剤乱用は、男性において一貫して減少しており 1994 年 41.2%から 2008 年には 10.7%となり、今回は前回 2016 年より微増し 3.7%となった。女性有機溶剤乱用率は男性よりも減少率がゆるやかであったがやはり漸減し前回 2016 年 17.2%から今回 12.5%となった。

大麻は男性では 1994 年から 2008 年までほぼ 4%から 6%の範囲であったが、2010 年以降 2%程度が続いており今回 2018 年は 1.6%となった。女性では 1998 年から 2008 年にかけて 14%から 15%台であったが 2012 年以降 10%以下となり前回 2016 年 3.3%から今回 4.3%に微増した。

覚せい剤は男性では 1994 年 1.2%から 2000 年 5.0%まで増加したのち、2002 年 2.5%、2004 年 1.6%となり、2006 年以降 1%以下であり前回 2016 年は 0.8%だったが今回も 0.5%と 1%以下であった。女性では 1994 年 6.6%から 1998 年 16.9%まで増加したが、2000 年 15.2%から 2006 年 10.9%へと低下傾向であり、2008 年以降は 10%以下となり 2012 年からは 5%以下であったが、前回 2016 年の 1.8%に対して今回は 3.4%と増加した。

ブタンは、男性では 2000 年 17.8%からやや減少傾向にあったが 2014 年までは 10%以上見られた。今回は前年と同様に 10%以下の 4.0%であった。女性でも 2000 年 33.3%から減少傾向を示し前回 2016 年 6.2%に急減している。今回も減少し

5.3%だった。男女とも 10%以下で推移している。

9) 地域ごとの有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度 (表 19-1、19-2)

比較的乱用者の多い有機溶剤、大麻、ブタン、睡眠薬、危険ドラッグの各種薬物乱用頻度を地域ごとにみてもみた。

男性では、全体で見ると九州の乱用者が最も多かった。有機溶剤、大麻、睡眠薬は中国・四国で乱用者が多かった。その他の地域で多かったのは、有機溶剤の東北・北海道、ブタンの関西であった。

女性の場合、全体的に東北・北海道あるいは関西で各種薬物乱用者が多かった。関東では有機溶剤や睡眠薬の乱用が多かった。

地域別の検討では対象数が少なくなるので調査年度による変動が大きい。そのため結果についての信頼性は低いと考えられる。

3. 各種薬物に対する意識(表 20-1、20-2)

有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタン、睡眠薬・抗不安薬、危険ドラッグについて薬物使用への意識を尋ねた。回答は「すべきではない」「少々なら構わない」「構わない」「考えたことがない」の 4 件法である。

いずれの薬物も男性は半数以上、女性はほぼ半数の児童が特に薬物乱用をしてはいけないかどうか考えたり意識したりはしていなかったとしている。それ以外の回答では、すべきではないと答えた者が多かった。

男性で「すべきではない」と回答した者は、有機溶剤 42.1%、大麻 43.3%、覚せい剤 45.2%、ブタン 40.2%、睡眠薬・抗不安薬 40.6%、危険ドラッグ 43.7%であった。女性で「すべきではない」と回答した者は、有機溶剤 34.8%、大麻 39.3%、覚せい剤 40.3%、ブタン 35.0%、睡眠薬・抗不安薬 29.9%、危険ドラッグ 42.8%であった。

すべての薬物で男性の方が女性よりも「すべきではない」と答える傾向であった。

4. 有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度・有害性の知識・体験症状

1) 有機溶剤

① 有機溶剤吸引頻度(表 21)

乱用者の男性 14 人女性 22 人が有機溶剤を最も乱用していた時期の吸引頻度を回答した。

「今まで 1、2 回」が男女それぞれ 6 人(42.9%)、13 人(59.1%)と多かった。「ほとんど毎日」と回答した者は男女それぞれ 2 人(14.3%)、1 人(4.5%)であった。

② 有機溶剤の有害性知識 (表 22)

有機溶剤乱用の影響として、急性中毒死、精神病状態(幻覚・妄想など)、フラッシュバックについて知っていたかどうかを尋ねた。

男性の知識は、急性中毒死 161 人(26.1%)、精神病状態 261 人(42.2%)、フラッシュバック 247 人(40.0%)であり、いずれもしらなかったのは 267 人(43.2%)であった。

女性では急性中毒死 75 人(36.1%)、精神病状態 131 人(63.0%)、フラッシュバック 118 人(56.7%)であり、いずれもしらなかったのは 63 人(30.3%)であった。

女性の方が男性よりも有害性知識がある傾向にあった。

③ 有機溶剤で体験した症状(乱用者)(表 23)

乱用者の男性 23 人女性 26 人に有機溶剤による症状の体験を尋ねた。精神病状態が男性乱用者 4 人(17.4%)、女性乱用者 8 人(30.8%)、フラッシュバックは男性乱用者 8 人(34.8%)、女性乱用者 10 人(38.5%)であった。

2) ブタン乱用

① ブタン乱用頻度(表 24)

乱用者の男性 22 人女性 14 人がブタンを最も乱用していた時期の吸引頻度を回答した。「ほとんど毎日」していた経験があるのは、男性 4 人(18.2%)、女性 1 人(7.1%)であった。一方、「い

ままで 1、2 回」のみと回答した者は男性 13 人(59.1%)、女性 7 人(50.0%)であった。

② ブタンの有害性知識(表 25)

ブタン吸引の影響として、精神病状態、急性中毒死を知っていたかどうかについて尋ねた。

男性の知識は、急性中毒死 85 人(13.8%)、精神病状態 91 人(14.7%)、いずれもしらなかったのは 446 人(72.2%)であった。

女性では急性中毒死 44 人(21.2%)、精神病状態 48 人(23.1%)、いずれもしらなかったのは 139 人(66.8%)であった。

女性の方が男性よりも有害性知識がある傾向にあった。男性では乱用者は非乱用者よりも有害性の知識があるが、女性では急性中毒死について乱用者と非乱用者の間に大きな差はないようであった。

③ ブタンで体験した症状(乱用者)(表 26)

乱用者において体験した症状を尋ねた。その結果ブタン乱用によって精神病状態を体験した者は男女それぞれ 5 人(22.7%)、3 人(21.4%)であった。

3) 大麻

① 大麻の知識・関心(表 27)

「大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)、大麻についてあなたはどう思っていたか」を尋ねた。

関心がなかったとした者が男性 372 人(60.2%)女性 128 人(61.5%)と最も多かった。一方「見てみたかった」が男性 30 人(4.9%)女性 24 人(11.5%)、「試してみたかった」が男性 23 人(3.7%)女性 18 人(8.7%)であった。

② 最もしていた時の大麻乱用頻度(表 28)

大麻乱用経験者の男性 11 人女性 9 人に最も吸引していた時期の吸引頻度を尋ねた。「今まで 1、2 回」が男性では 5 人(45.5%)女性では 4 人(44.4%)と多かった。また「数回以上」と答えた者も男性 5 人(45.5%)女性 5 人(55.6%)と多か

った。男性で「ほとんど毎日」と答えた者が 1 人(9.1%)みられた。

③ 大麻の有害性知識(表 29)

大麻吸引の影響として、精神病状態になることを知っていたかどうか尋ねた。男女それぞれ 319 人(51.6%)および 134 人(64.4%)が知っていたと回答した。

④ 大麻で体験した症状(乱用者)(表 30)

乱用者に大麻による精神病症状を体験したかどうかを尋ねた。男性 5 人(45.5%)、女性 2 人(22.2%)が精神病症状を体験したと答えた。

4) 覚せい剤

① 覚せい剤への知識・関心(表 31)

「覚せい剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、覚せい剤についてどう思っていたか」を尋ねた。関心がなかったとした者が男性 416 人(67.3%)女性 131 人(63.0%)と最も多かった。「見てみたかった」および「試してみたかった」という覚せい剤への関心を示した者が、男性でそれぞれ 26 人(4.2%)13 人(2.1%)、女性でそれぞれ 26 人(12.5%)19 人(9.1%)いた。

② 覚せい剤の乱用頻度(表 32)

覚せい剤乱用者男性 5 人女性 8 人が最も乱用していた時期にどの程度乱用していたかを回答した。男女とも「今まで 1、2 回」が多く男女それぞれ 3 人(60.0%)、4 人(50.0%)であり、「数回以上」は女性のみで 4 人(50.0%)いた。男性では「ほとんど毎日」とした者が 2 人(40.0%)いた。

③ 覚せい剤の有害性知識(表 33)

覚せい剤吸引の影響として、精神病状態およびフラッシュバックを知っていたかどうかについて尋ねた。男性の知識は、精神病状態 215 人(34.8%)、フラッシュバック 198 人(32.0%)であり、いずれもしらなかったのは 317 人(51.3%)であった。一方女性は、精神病状態 101 人(48.6%)、フラッシュバック 107 人(51.4%)であり、いずれもしらなかったのは 110 人(52.9%)

であった。

④ 覚せい剤の有害性体験率(表 34)

覚せい剤乱用者に、精神病状態、フラッシュバックの体験について尋ねた。男性では、精神病状態を 2 人(40.0%)、フラッシュバックを 3 人(60.0%)が体験していた。女性では、精神病状態を 3 人(37.5%)、フラッシュバックを 8 人全員が体験していた。

5) 危険ドラッグ

① 危険ドラッグの有害性知識(表 35)

危険ドラッグの影響として、精神病状態および急性中毒死を知っていたかどうかについて尋ねた。男性の知識は、急性中毒死 173 人(28.0%)、精神病状態 222 人(35.9%)、いずれもしらなかったのは 328 人(53.1%)であった。女性では、急性中毒死 76 人(36.5%)、精神病状態 104 人(50.0%)、いずれもしらなかったのは 94 人(45.2%)であった。

② 危険ドラッグと覚せい剤の比較(表 36)

危険ドラッグが覚せい剤より心身への影響が大きい場合があることを知っているかどうかを尋ねた。

知っていたと答えた者は、男性 277 人(44.8%)、女性 122 人(58.7%)であった。

D. 考察

1. 本年度調査の薬物乱用実態

1) 乱用薬物の種類

今年度の調査で、非行児の乱用薬物として多かったのは男性では有機溶剤 23 人(3.7%)およびブタン 25 人(4.0%)、女性では有機溶剤 26 人(12.5%)、睡眠薬 21 人(10.1%)、抗不安薬 11 人(7.7%)、ブタン 11 人(5.3%)などであった。

また 2012 年度より新たに調査対象薬物とした危険ドラッグは、男女それぞれ 2012 年は 25 人(3.6%)および 23 人(8.0%)であったものが、2014 年は 17 人(2.2%)および 19 人(5.8%)、前回 2016

年は5人(0.7%)および2人(0.7%)、今回2018年は2人(0.3%)、2人(1.0%)といずれも1%以下に減少した。これはやはり危険ドラッグ取り締まりの対策によるものと推測される。

薬物乱用で検挙された少年数は近年減少している。特に有機溶剤乱用は1990年頃には2万人以上が検挙されていたが、その後急激に減少していき1994年に1万人以下となり2006年には1000人以下と大きく減少している。2011年には少年の送致件数は100人となり、2014年以降は10人前後となっている。われわれのこれまでの入所非行児調査では以前は男女とも有機溶剤が最も多い乱用薬物であったが、2006年調査以降は男性では有機溶剤乱用よりもブタン乱用の方が多くなっていた。女性においても2014年調査でブタン乱用が有機溶剤乱用よりもやや高い頻度となった。

その一方医薬品である睡眠薬や抗不安薬の乱用が比較的多く認められている。青少年の乱用薬物としてあまり重要視されていないが今後乱用薬物として注意する必要がある。有機溶剤乱用が急減してきたためブタンや抗不安薬が相対的に頻度が高くなり、実態については今後とも把握していく必要がある。

また医薬品として以前より使用されていた咳止め液(ブロン液など)も乱用薬物としてまだ時々みられる。

男性においてその他の薬物乱用頻度は1%台である。この値は未回答者の頻度と変わらずこれらの薬物乱用頻度は信頼性が低いと考えられる。

全体的に薬物乱用が減少してきているため、特に男性では児童自立支援における薬物問題の重要性は相対的に低下していると考えられる。そのため薬物に対する啓蒙教育があまり行われなくなるのではないかと心配される。

2) 薬物乱用の性差

入所非行児の薬物乱用の性差については、従来と同様にすべての薬物において男性より女性の

方が乱用率が高くまた乱用者実数も多かった。一方、警察庁統計によれば¹²⁾、覚せい剤乱用により検挙された少年は女性がやや多く、大麻では男性が圧倒的に多くなっている。われわれの調査対象である入所非行児においては、検挙された犯罪少年の場合とはやや異なるといえる。

この理由として、一つには女子非行では性非行や薬物非行が重要な入所理由となりやすいことが考えられる。児童保護の観点から、薬物問題は男性より女性で重要となりやすい。児童自立支援施設への入所は児童相談所や家庭裁判所の判断によるので、女性の場合の方が薬物乱用をする生活状況が施設入所に結び付く可能性が高いと思われる。

3) 薬物乱用の地域差

薬物乱用の頻度を地域ごとに検討した結果、薬物の種類により地域差が認められた。しかし、地域ごとの対象人数はそれほど多くないので乱用率などの結果の変動は大きい。そのため地域差については断定的なことは言いにくい。

今回、男性では有機溶剤乱用は東北・北海道および関東や中国・四国などが高い傾向にあった。またブタン乱用は九州に多かった。一方女性の場合は、全般に有機溶剤乱用が東北・北海道および関東あるいは関西でまたブタン乱用が東北・北海道で高かった。

対象数が少ないため地域差を検討するのは困難であるが、薬物乱用は環境の影響が大きいと考えられるので今後とも地域差については検討をしていく。

2. 薬物乱用の年代変化

乱用頻度の年代変化は回答数や回答施設の変動の影響を受ける。回答者数は今回は836人であった。このような回答率の変動を考慮し結果の解釈には注意が必要である。また薬物乱用には地域差があるので回答する施設が調査ごとに異なる

とその影響も出てくると思われる。さらに対象者のうち1年以上入所している者が30%以上いる。これらの対象者では1年以上前の薬物経験を訪ねていることになるので警察統計の年度と直接比較し評価することは難しい。

以上を考慮したうえで有機溶剤乱用、大麻乱用、覚せい剤乱用、ブタン乱用の年次変化についておよそ下記のとおりである。

1) 有機溶剤

男性では1994年度調査より有機溶剤乱用は一貫して減少しており、1994年度から2016年まで2年おきに41.2%、37.3%、30.3%、26.4%、21.6%、14.3%、9.8%、10.7%、7.2%、4.5%、4.5%、3.3%となっている。今回2018年度は微増し3.7%となった。

一方、女性も減少傾向にあるが男性ほど顕著でない。女性では、1994年から1998年までの59.6%、50.6%、48.5%と減少したが、2000年は52.3%とやや上昇し、その後2002年から2016年度まで46.5%、44.2%、31.1%、30.5%、28.6%、21.3%、20.6%、17.2%と減少してきており、今回2018年度さらに減少し12.5%となった。

前述のように有機溶剤乱用により検挙された少年数は1991年ごろは2万人前後であったがその後漸減し、近年の検挙数は10前後までに減少した。この傾向は児童自立支援施設入所非行児の有機溶剤乱用者数の動向は検挙少年数との変化と相関していると思われる。児童自立支援施設入所児童の有機溶剤乱用率が今後とも減少していくか継続的調査が必要である。

2) 大麻

大麻乱用は、男性では1994年および1996年は5.5%、6.7%であったが、1998年から2008年までほぼ4%から5%前後で一定していた。2012年および2014年は2.0%ほどであったが、2016年はさらに1.6%となった。今回は1.6%で横ばいとなっ

た。女性では、1994年から1998年まで22.0%、19.0%、14.4%と漸減し、2000年から2008年まで14%から15%台であり、2010年・2012年・2014年それぞれ12.6%、7.0%、5.5%と低下しつづき、2016年には3.3%となった。今回は4.3%と微増する結果となった。

全体としてみるとこの10年ほど児童自立支援施設入所児の大麻乱用は有機溶剤乱用と比較すると乱用頻度の傾向ははっきりとはしていない。しかし2012年以降男女ともそれ以前よりはかなり減少してきているようである。警察庁は大麻事犯の検挙数増加の要因として若年者層の使用増加を挙げており今後とも経過を見ていく必要がある。

3) 覚せい剤

検挙された覚せい剤乱用少年は1990年代中頃より増加し、その後1998年より減少傾向にある。このような傾向と同様に、児童自立支援施設調査の覚せい剤乱用頻度も、男性では1994年1.2%から2000年5.0%まで増加傾向にあり、2002年度に2.5%へとはじめて減少し、2004年1.6%、2006年0.7%となった。2006年以降ずっと1%以下であり、前回2016年も0.8%であった。今回2018年は0.5%であった。男性非行児においては覚せい剤乱用はほとんど認められなくなってきている。女性では男性よりも乱用者が多いが最近では女性でも減少が目立つ。2006年までは10%以上いたが2008年以降は女性においても覚せい剤乱用は10%以下に減少してきており2014年は3.3%で、2016年1.8%であった。今回2018年は3.4%と前回調査と比べて増加した。全般に覚せい剤乱用は一時増加したが、ここ数年は減少傾向にあるといえよう。

4) ブタン

ブタン乱用ここ数回の調査で有機溶剤と同程度の乱用頻度を示しており、入所非行児において注意される乱用薬物であった。調査開始の2000

年以降がやや減少傾向であり前回 2016 年は乱用頻度は男女それぞれ 3.0%と 6.2%であった。前回は男女とも 2014 年の 1/3 程度に急に減少していた。今回は男性が 4.0%で前回より微増し、女性は 5.3%で減少した。2016 年以降減少している原因についてははっきりしていない。一時テレビ等でガス吸引による死亡が報道されたりしたためその教育的効果かもしれない。今回の調査で乱用頻度が少なかったが入手が容易な物質であるので今後とも動向を注視する必要がある。

3. 対象者の特性

薬物乱用への態度についても一連の研究で継続的に検討している。

1) 薬物乱用に対する態度

従来調査では、対象薬物について、「薬物の乱用そのものについてどう思うか」および「法律で薬物乱用を禁止していることをどう思うか」を尋ねてきた。前回より質問項目数調整のため質問形式および内容を変更した。有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタン、睡眠薬・抗不安薬、危険ドラッグの 6 つの薬物について薬物を使うことについてどう思うかを尋ねた。

前回 2016 年度より「薬物乱用について特に考えたことはない」という回答選択肢をくわえたところ、どの薬物についてでも 50%以上が「薬物乱用について特に考えたことはない」と回答していた。今回も男女とも 50%以上が考えたことはないという回答が多かったため薬物への態度を適切に測れなかった可能性がある。このような制限があるが、考えたことはないという者を除くと、ほとんどの者がすべきではないと答えていた。「少々なら構わない」「構わない」など薬物使用に許容的態度は男性では 5%以下に過ぎなかった。女性は男性よりも薬物乱用に許容的であり、睡眠薬・抗不安薬では 1/5 近くが「少々なら構わない」「構わない」など許容的回答をしていた。有機溶剤や大麻でも

15%ほどが許容的態度を示した。実際の薬物乱用も女性で高いことも合わせて、入所非行児においては女性は男性よりも薬物乱用に親和的であると考えられる。

2) 薬物の有害性知識

有機溶剤、ブタン、大麻、覚せい剤、危険ドラッグにおける精神症状の知識を尋ねた。有機溶剤では急性中毒死・精神病・フラッシュバックに対して 26%から 60%が知っているという回答であった。それに対してブタンでは急性中毒死の知識が 13%から 20%ほどだった。前回 2016 年が 70%ほどの回答があったことと比べると急減している。このことについて今後とも経過を見る必要がある。幻覚などの精神病症状が出ることについては男性 10%台、女性 20%台と少なかった。大麻や覚せい剤では精神病症状について 30%から 50%の者が知っていた。危険ドラッグについても一時的報道の効果か 35%から 50%で精神病症状が出ることを知っていた。また危険ドラッグの症状が覚せい剤よりも有害なことがあるという質問にも 40%から 60%近くの者が知っているとしており教育的知識の効果はあると思われた。

3) 非行歴

薬物非行を非行問題全般中でとらえる必要があると考え、薬物乱用以外の非行経験もこれまで継続的に調査している。入所非行児の処遇を考えるうえでどのような非行状況にあるのか把握することは重要と考える。相対的に薬物非行が多ければ薬物教育の必要性も高まると思われる。最近の入所児童の非行問題の変化の検討のため、代表的な非行行動として「恐喝・ひったくり」「不良交友」「傷害」の頻度を以前のわれわれの調査結果と比較してみる。

「傷害」は 1998 年男性 70.0%女性 57.1%、前回 2016 年は男性 57.7%女性 49.8%であったが、今回は男性 57.0%女性 49.0%でやや減少傾向であ

る。「不良交友」は1998年男性69.4%女性80.5%、前回は男性37.2%女性58.6%、今回は男性26.5%女性52.4%であった。やはりこれも調査当初よりやや減少傾向にあるようである。「恐喝・ひったくり」は1998年男性59.6%女性54.4%、前回男性19.1%女性22.3%で、今回は男性9.9%女性11.1%でありかなり減少傾向にある。

1998年より児童自立支援施設は教護院より名称変更され、施設目的も非行性の除去だけでなく自立への援助が必要な児童への対応となってきた。そのため以前より入所児童の非行度は低下している可能性が示唆される。有機溶剤乱用頻度の減少もこのような入所児童の非行性の低下と一部関連しているのかもしれない。しかし薬物によって乱用頻度が大きく減少しているものとそうでないものがあり乱用と非行性全体の関連ははっきりはしない。一方、家庭裁判所への係属率などはそれほど変化しておらず、一概に非行性が低下しているとも言いきれず、薬物乱用との関連は断定できない。

今後母集団としての入所児童の特性変化に注意しながら薬物乱用調査をしていく必要があると思われる。

4. 方法論上の問題点

1) 対象者の特性

本研究は児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用の実態調査であるが、前述のとおり入所児童の特性が以前と変化している可能性がある。今回入所児童のいくつかの非行行動は薬物乱用に限らず次第に減少していることが示唆されている。

施設関係者の間では入所児童が以前ほどいわゆる反社会性が目立たなくなっていると言われている。特に1998年に教護院から児童自立支援施設へと名称変更になり、同時に施設目的がかつての教護院時代の非行性除去ではなく児童への支援となり、さらに入所児童が変化してきていると考えられる。入所児童はおもに反社会性の

高い非行児童であるが、非社会的であったり発達障害などの精神障害を伴い不適応を起こしていたりする児童が増えてきているとされている。国立武蔵野学園による調査では、児童自立支援施設における発達障害の診断率はおよそ20-30%とされる。したがって調査対象そのものの問題が非行などの反社会性よりも養護性となってきた。

以前よりも非行性の軽い児童が多く入所するようになってきているとすると、当然薬物非行もそれに伴い減少している可能性がある。したがって入所児童の特性の変化に注意しながら今後の継続的調査を進めていく必要がある。

2) 対象数の変動

われわれの調査は全国児童自立支援施設を対象としているがこれまで有効回答数は800人から1200人ほどである。今回も836人でほぼこれまでの範囲内と思われるがやや少なかった。人数が少ないと地域差による変動なども受けやすく結果の信頼性も低下する。本調査は比較的質問数が少ないとはいえ、児童および施設にとって調査協力はやはり負担であると思われるので、次回以降の調査でも回答数が極端に減少しないよう配慮した研究計画を作成していく。

3) 無回答率の問題

無回答を減らすために無記名式の質問紙調査としているが、質問内容が薬物乱用という反社会行動であるため無回答が多くなることが予想される。今回の調査で各薬物の乱用経験について2%から3%が無回答であった。乱用率が数%程度の薬物では乱用頻度と無回答率が変らないこととなる。無回答者においては薬物乱用者が多い可能性があるため、特に乱用率の低い薬物では乱用率の信頼性が乏しくなる。薬物乱用の頻度そのものがかなり低下してきているため乱用頻度の信頼性が低いものとなっている。

5. 今後の課題

1) 調査対象数の問題

施設回収率はこれまで 70%から 80%であり、今回も施設回答数が 41 施設(71.9%)であった。年度による施設の調査参加率の変動が大きいと結果の信頼性が低下するので今後とも施設回答率が一定以上保たれるようにする必要がある。回答率を維持するために、まず本調査が施設や児童の抵抗を引き起こさないような内容であることに注意しなければならない。現在でも薬物乱用への質問は無用な関心を引き起こしたり過去の非行を思い出させたりして良くないと考えられる場合があるようである。これらの点に配慮しつつ必要な事柄を聴ける質問紙にしていくことが望まれる。また調査時期が適切かどうかの問題もある。同時期に他の調査の依頼、入所児童の生活態度・状況、施設行事等により調査に参加しにくくなることもある。これらの点を考慮して今後の調査計画を立てる必要があると考えられる。

2) 非行少年における薬物乱用の減少に対する対応

非行少年の薬物乱用は減少してきている。特に男性入所児童において薬物非行は激減した。ただ現在でも女性においては有機溶剤乱用や医薬品乱用などは 10%以上に認められる。

以前は薬物乱用と言えば有機溶剤と覚せい剤であったが、今は多様な薬物が使用されている。使用される薬物が多様であると、その有害性の説明も多様になるであろうし、入手経路などもまた多様になる。全般的な薬物教育は変わらないと思われるが、施設としては多くの乱用薬物について教育することが難しくなっているかもしれない。

近年話題となった危険ドラッグ(以前の脱法ハーブなど)は前回 2016 年調査で男女ともその頻度は 1%以下であったが今回も 1%以下だった。これは危険ドラッグへの取り締まり強化の効果であろう。

薬物非行が目立たなくなると薬物教育そのものがおざなりになることも危惧される。薬物乱用児童にとって施設入所中は薬物教育を受けられる良い機会でありこの間に適切な教育を受けられるかどうかは施設退所後の薬物乱用再発にとって重要と思われる。

非行少年における薬物乱用は有機溶剤乱用中心から多様になってきており、今後そのような変化に合わせた調査や啓蒙教育が必要と思われる。ブタンや医薬品その他薬物を考慮して調査を継続していく必要がある。

E. 結論

薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物への意識および実態を把握する目的のため、全国の児童自立支援施設に入所中の児童に質問紙調査を実施した。有効調査人数は、836 人(男性 618 人、女性 208 人)であった。調査により以下のような結果が得られた。

1) 有機溶剤乱用者数は男 23 人(3.7%)女性 26 人(12.5%)、大麻乱用者数は男性 10 人(1.6%)女性 9 人(4.3%)、覚せい剤乱用者数は男性 3 人(0.5%)女性 7 人(3.4%)、ブタン乱用者数男性 25 人(4.0%)女性 11 人(5.3%)であった。その他、睡眠薬男性 9 人(1.5%)女性 21 人(10.1%)、抗不安薬乱用が男性 8 人(1.3%)女性 16 人(7.7%)、ブロン(咳止め液)乱用が男性 3 人(0.5%)女性 7 人(3.4%)、危険ドラッグは男性 2 人(0.3%)および女性 2 人(1.0%)に認められた。従来の結果と同様にすべての薬物にて女性は男性より乱用頻度が高かった。

2) 1994 年度からの薬物乱用頻度の変化は以下のとおりである。有機溶剤乱用はこれまでと同様に減少傾向を示した。特に男性においてこの傾向が著しく、1994 年 41.2%から 2006 年以降 10%前後に減少し前回 3.3%で今回 3.7%であった。女性でも 1994 年 59.6%から 2006 年以降 30%となっていたが、前回 17.2%今回 12.5%となった。覚せい剤乱用は男女とも 2000 年ころまでやや増加傾向にあったが、2002 年以降減少傾向を示しており、男

性は2006年以降1%以下で今回0.5%女性は2008年以降10%以下となっていたが前回1.8%と比べて今回は7人(3.4%)と増加した。大麻乱用頻度について、男性は4%から5%前後であったが2010年以降2%ほどであり今回も同様に1.6%であった。一方女性では1994年(22.0%)および1996年(19.0%)はやや高かったが1998年から14%から15%台となり前回3.3%今回4.3%と10%以下となっている。

3) 乱用に対する態度は、許容的態度をしめすものは男性では1%から4%女性では10%から25%見られ、女性では特に医薬品乱用に対しては許容的傾向であった。一方、入所非行児の非行歴を検討した結果非行程度がやや軽度化している傾向が示唆された。

謝辞

本研究は、全国の児童自立支援施設の多くの方々のご協力により実施ができました。ご協力いただいた方々にここで深謝させていただきます。

F. 文献

- 1) 阿部恵一郎：児童福祉施設(教護院)における有機溶剤乱用少年・少女の実態調査. 平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存研究の社会的、精神医学的特徴に関する研究 平成6年度研究結果報告書. 1995
- 2) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成10年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」. 1999
- 3) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成12年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」. 2001
- 4) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成14年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」. 2003
- 5) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成16年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」. 2005
- 6) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成18年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握と乱用・依存者に対する対応策に関する研究」. 2007
- 7) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成20年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握と「回復」に向けての対応策に関する研究」. 2009
- 8) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成22年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態把握と再乱用防止のための社会資源等の現状と課題に関する研究」 2011
- 9) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成24年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態把握と薬物依存者に関する制度的社会資源の現状と課題に関する研究」 2013
- 10) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成26年度厚生労働科学研究「脱法ドラッグを含む薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の回復とその家族に対する支援に関する研究」 2015
- 11) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成28年度厚生労働科学研究「危険ドラッグを含む

薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」
2017

- 12) 警察庁警察庁生活安全局少年課:平成 29 年中
における少年の補導及び保護の概況 2017

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 性・学年構成

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
小学 4年以下	9	1.5	2	1.0
小学 5年	17	2.8	5	2.4
小学 6年	38	6.1	8	3.8
中学 1年	82	13.3	27	13.0
中学 2年	177	28.6	60	28.8
中学 3年	259	41.9	87	41.8
高校 1年	12	1.9	6	2.9
高校 2年	3	0.5	1	0.5
高校 3年	2	0.3	2	1.0
専門学校	2	0.3	0	0.0
中卒 無職	15	2.4	8	3.8
就労中	2	0.3	1	0.5
無回答	0	0.0	1	0.5

表2 性・年齢構成

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
9歳以下	5	0.8	2	1.0
10歳	10	1.6	3	1.4
11歳	22	3.6	5	2.4
12歳	65	10.5	16	7.7
13歳	122	19.7	40	19.2
14歳	212	34.3	78	37.5
15歳	156	25.2	52	25.0
16歳	14	2.3	5	2.4
17歳	8	1.3	5	2.4
18歳	1	0.2	2	1.0
無回答	3	0.5	0	0.0

表3 施設入所期間

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
3ヶ月以下	99	16.0	51	24.5
4ヶ月から6ヶ月	103	16.7	39	18.8
6ヶ月から1年	143	23.1	51	24.5
1年から1年6ヶ月	126	20.4	33	15.9
1年6ヶ月から2年	51	8.3	15	7.2
2年以上	17	2.8	14	6.7
無回答	79	12.8	5	2.4

表4 地域別人数

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
東北・北海道	55	8.9	25	12.0
関東	140	22.7	41	19.7
中部	77	12.5	25	12.0
関西	158	25.6	60	28.8
中国・四国	84	13.6	26	12.5
九州	68	11.0	31	14.9
不詳	36	5.8	0	0.0

表5 非行歴

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
学校をさぼった	365	59.1	157	75.5
外泊や家出をした	341	55.2	172	82.7
自転車を盗んだ	191	30.9	77	37.0
人の物やお金を盗んだ	309	50.0	116	55.8
人にけがをさせた	352	57.0	102	49.0
家からお金を持ち出した	315	51.0	113	54.3
不良仲間とつき合った	164	26.5	109	52.4
家の中で暴れた	262	42.4	112	53.8
人の物をわざと壊した	156	25.2	73	35.1
バイクや自動車を盗んだ	96	15.5	35	16.8
ひったくり、カツアゲ	61	9.9	23	11.1
無免許運転	104	16.8	36	17.3
物や家に火をつけた	141	22.8	44	21.2
根性焼きや入墨をした	64	10.4	39	18.8
性関係のこと	179	29.0	99	47.6
その他	63	10.2	44	21.2
暴力団とつき合った	20	3.2	28	13.5
暴走族に入った	13	2.1	6	2.9

表6 初発非行年齢

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
小学校入学前	42	6.8	14	6.7
小学 1年	50	8.1	19	9.1
小学 2年	38	6.1	17	8.2
小学 3年	86	13.9	21	10.1
小学 4年	75	12.1	28	13.5
小学 5年	89	14.4	26	12.5
小学 6年	76	12.3	30	14.4
中学 1年	68	11.0	31	14.9
中学 2年	27	4.4	3	1.4
中学 3年	1	0.2	3	1.4
中学卒業後	0	0.0	1	0.5
無回答	66	10.7	15	7.2

表7 家庭裁判所への係属歴

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
ある	115	18.6	23	11.1
ない	478	67.6	178	85.6
無回答	25	3.5	7	3.4

表8 周囲の薬物乱用の頻度

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	61	9.9	45	21.6
大麻	38	6.1	50	24.0
覚せい剤	35	5.7	39	18.8
ブタン	42	6.8	32	15.4
MDMA	2	0.3	7	3.4
コカイン	10	1.6	21	10.1
リタリン	4	0.6	6	2.9
睡眠薬	26	4.2	50	24.0
抗不安薬	28	4.5	37	17.8
咳止め液	28	4.5	9	4.3
危険ドラッグ	12	1.9	22	10.6
その他	19	3.1	11	5.3

表9 周囲の薬物乱用による異常や症状頻度

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	17	2.8	14	6.7
大麻	9	1.5	17	8.2
覚せい剤	15	2.4	18	8.7
ブタン	8	1.3	10	4.8
睡眠薬・抗不安薬	16	2.6	22	10.6
危険ドラッグ	7	1.1	15	7.2

表10 薬物乱用を誘われた頻度

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	27	4.4	28	13.5
大麻	26	4.2	25	12.0
覚せい剤	10	1.6	16	7.7
ブタン	21	3.4	15	7.2
睡眠薬・抗不安薬	14	2.3	22	10.6
危険ドラッグ	5	0.8	9	4.3
その他	7	1.1	8	3.8

表11-1 薬物入手可能性(男性) 単位%

	簡単	何とか	ほとんど	絶対
		手に入る	不可能	不可能
有機溶剤	10.7	8.8	7.7	72.9
大麻	5.6	8.8	7.9	77.8
覚せい剤	4.3	6.9	9.0	79.7
ブタン	21.7	4.9	6.0	67.5
睡眠薬・抗不安薬	9.8	10.2	8.1	72.0
危険ドラッグ	3.2	6.4	9.7	80.7

表11-2 薬物入手可能性(女性) 単位%

	簡単	何とか	ほとんど	絶対
		手に入る	不可能	不可能
有機溶剤	24.1	11.0	8.9	56.0
大麻	15.3	12.7	12.7	59.3
覚せい剤	10.6	13.2	13.8	62.4
ブタン	28.9	8.4	8.9	53.7
睡眠薬・抗不安薬	29.2	10.4	8.9	51.6
危険ドラッグ	7.9	10.1	16.4	65.6

表12 本人の薬物乱用の頻度

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	23	3.7	26	12.5
大麻	10	1.6	9	4.3
覚せい剤	3	0.5	7	3.4
ブタン	25	4.0	11	5.3
MDMA	1	0.2	1	0.5
コカイン	1	0.2	2	1.0
リタリン	0	0.0	0	0.0
睡眠薬	9	1.5	21	10.1
抗不安薬	8	1.3	16	7.7
咳止め液	3	0.5	7	3.4
危険ドラッグ	2	0.3	2	1.0
その他	7	1.1	6	2.9

表13 飲酒歴

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
ない	412	66.7	77	37.0
1年で数回	76	12.3	28	13.5
月に2-3回	33	5.3	21	10.1
週に2-3回	49	7.9	36	17.3
ほぼ毎日	30	4.9	38	18.3
無回答	18	2.9	8	3.8

表14 飲酒開始 (経験者のみ)

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
小学 1年	5	2.9	9	7.7
小学 2年	6	3.5	2	1.7
小学 3年	13	7.5	7	6.0
小学 4年	18	10.4	5	4.3
小学 5年	20	11.6	19	16.2
小学 6年	25	14.5	20	17.1
中学 1年	61	35.3	31	26.5
中学 2年	17	9.8	19	16.2
中学 3年	8	4.6	5	4.3

表15 喫煙歴

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
ない	409	66.2	102	49.0
1年で数回	49	7.9	18	8.7
月に2-3回	13	2.1	7	3.4
週に2-3回	32	5.2	15	7.2
ほぼ毎日	98	15.9	58	27.9
無回答	17	2.8	8	3.8

表16 喫煙開始

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
小学 1年	5	2.7	2	2.1
小学 2年	4	2.1	2	2.1
小学 3年	13	6.9	8	8.5
小学 4年	27	14.4	10	10.6
小学 5年	21	11.2	13	13.8
小学 6年	34	18.1	12	12.8
中学 1年	52	27.7	30	31.9
中学 2年	23	12.2	12	12.8
中学 3年	7	3.7	5	5.3
不明	2	1.1	0	0.0

表17 法律による未成年の喫煙禁止について

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
すべきではない	385	62.3	82	39.4
少々ならかまわない	107	17.3	56	26.9
かまわない	74	12.0	56	26.9
無回答	52	8.4	14	6.7

表18-1 有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタンの乱用頻度の年代変化(男性)
単位:%

	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018
有機溶剤	41.2	37.3	30.3	26.4	21.6	14.3	9.8	10.7	7.2	4.5	4.5	3.3	3.7
大麻	5.5	6.7	4.8	5.0	4.9	4.9	2.7	4.0	1.9	2.0	2.1	1.6	1.6
覚せい剤	1.2	1.7	3.9	5.0	2.5	1.6	0.7	0.3	0.4	0.7	0.1	0.8	0.5
ブタン				17.8	17.5	13.7	10.5	11.7	9.1	10.1	11.3	3.0	4.0

表18-2 有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタンの乱用頻度の年代変化(女性)
単位:%

	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018
有機溶剤	59.6	50.6	48.5	52.3	46.5	44.2	31.1	30.5	28.6	21.3	20.6	17.2	12.5
大麻	22.0	19.0	14.4	14.7	15.9	15.9	14.0	14.0	12.6	7.0	5.5	3.3	4.3
覚せい剤	6.6	10.8	16.9	15.2	13.6	12.4	10.9	6.9	8.3	4.5	3.3	1.8	3.4
ブタン				33.3	27.9	25.7	15.0	18.8	21.5	16.4	21.8	6.2	5.3

表19-1 地域別薬物乱用頻度(男性)

	有機溶剤	大麻	ブタン	睡眠薬	危険ドラッグ
東北・北海道(n=55)	5.5%	0.0%	3.6%	1.8%	1.8%
関東(n=140)	5.0%	1.4%	3.6%	1.4%	0.7%
中部(n=77)	1.3%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%
関西(n=158)	1.9%	2.5%	4.4%	1.9%	0.0%
中国・四国(n=84)	6.0%	3.6%	1.2%	2.4%	0.0%
九州(n=68)	2.9%	0.0%	8.8%	1.5%	0.0%

表19-2 地域別薬物乱用頻度(女性)

	有機溶剤	大麻	ブタン	睡眠薬	危険ドラッグ
東北・北海道(n=25)	16.0%	4.0%	16.0%	8.0%	0.0%
関東(n=41)	14.6%	4.9%	7.3%	12.2%	2.4%
中部(n=25)	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%
関西(n=60)	18.3%	6.7%	3.3%	11.7%	1.7%
中国・四国(n=26)	7.7%	0.0%	3.8%	11.5%	0.0%
九州(n=31)	6.5%	6.5%	3.2%	9.7%	0.0%

表20-1 薬物への態度(男性)

	すべきではない	少々なら構わない	構わない	考えたことがない
有機溶剤	42.1%	1.9%	0.5%	55.4%
大麻	43.3%	2.1%	1.7%	52.9%
覚せい剤	45.2%	1.2%	0.7%	52.9%
ブタン	40.2%	1.6%	2.3%	56.0%
睡眠薬・抗不安薬	40.6%	2.1%	1.9%	55.5%
危険ドラッグ	43.7%	0.9%	0.7%	54.8%

表20-2 薬物への態度(女性)

	すべきではない	少々なら構わない	構わない	考えたことがない
有機溶剤	34.8%	7.0%	8.0%	50.2%
大麻	39.3%	7.0%	7.0%	46.8%
覚せい剤	40.3%	7.0%	6.0%	46.8%
ブタン	35.0%	5.5%	8.0%	51.5%
睡眠薬・抗不安薬	29.9%	12.4%	12.9%	44.8%
危険ドラッグ	42.8%	5.0%	4.5%	47.8%

表21 最もしていた時の有機溶剤乱用頻度(乱用者のみ)

	男性(n=14)		女性(n=22)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回数回以上	6	42.9	13	59.1
ほとんど毎日	2	14.3	1	4.5

表22 有機溶剤の知識

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
急性中毒死	161	26.1	75	36.1
精神病状態	261	42.2	131	63.0
フラッシュバック	247	40.0	118	56.7
いずれも知らなかった	267	43.2	63	30.3

表23 有機溶剤で体験した症状(有機溶剤乱用者)

	男性乱用者(n=23)		女性乱用者(n=26)	
	人数	%	人数	%
精神病状態	4	17.4	8	30.8
フラッシュバック	8	34.8	10	38.5

表24 最もしていた時のブタン乱用頻度(乱用者のみ)

	男性(n=22)		女性(n=14)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回数回以上	13	59.1	7	50.0
ほとんど毎日	5	22.7	6	42.9
ほとんど毎日	4	18.2	1	7.1

表25 ブタンの知識

	男性(n=618)		女性(n=208)	
	人数	%	人数	%
急性中毒死	85	13.8	44	21.2
精神病状態	91	14.7	48	23.1
いずれも知らなかった	446	72.2	139	66.8

表26 ブタンで体験した症状(乱用者のみ)

	男性乱用者(n=22)		女性乱用者(n=14)	
	人数	%	人数	%
精神病状態	5	22.7	3	21.4

表27 大麻への関心

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
知らなかった	145	23.5	32	15.4
関心がなかった	372	60.2	128	61.5
見てみたかった	30	4.9	24	11.5
試してみたかった	23	3.7	18	8.7
無回答	48	7.8	6	2.9

表28 最もしていた時の大麻乱用頻度(乱用者のみ)

	男性(n=11)		女性(n=9)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回数回以上	5	45.5	4	44.4
ほとんど毎日	5	45.5	5	55.6
ほとんど毎日	1	9.1	0	0.0

表29 大麻の知識

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
精神病状態	319	51.6	134	64.4

表30 大麻で体験した症状(乱用者のみ)

	男性乱用者(n=11)		女性乱用者(n=9)	
	人数	%	人数	%
精神病状態	5	45.5	2	22.2

表31 覚せい剤への関心

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
覚せい剤は知らなかった	110	17.8	27	13.0
関心がなかった	416	67.3	131	63.0
見てみたかった	26	4.2	26	12.5
試してみたかった	13	2.1	19	9.1
無回答	53	8.6	5	2.4

表32 覚せい剤乱用頻度

	男性(n=5)		女性(n=8)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回	3	60.0	4	50.0
数回以上	0	0.0	4	50.0
ほとんど毎日	2	40.0	0	0.0

表33 覚せい剤の知識

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
精神病状態	215	34.8	101	48.6
フラッシュバック	198	32.0	107	51.4
いずれも知らなかった	317	51.3	110	52.9

表34 覚せい剤で体験した症状

	男性乱用者(n=5)		女性乱用者(n=8)	
	人数	%	人数	%
精神病状態	2	40.0	3	37.5
フラッシュバック	3	60.0	8	100.0

表35 危険ドラッグの知識

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
精神病状態	222	35.9	104	50.0
急性中毒死	173	28.0	76	36.5
いずれも知らなかった	328	53.1	94	45.2

表36 危険ドラッグが覚せい剤より有害なことがあることへの知識

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
知っていた	277	44.8	122	58.7

調査へのお願い

- この調査の目的は、薬物などに対するみなさんの考えや経験を知ることです。この調査は、厚生労働省の科学研究費によるもので、現在、全国の一般中学生でも同様な調査が行われています。
- 自分の名前は書く必要はありません。また、集めた用紙もコンピュータで集計しますので誰がどのように答えたのか分かりません。したがって、答えた内容が施設での生活や退院時期に影響することはありません。どうしても答えたくない質問には答えなくてもかまいません。
- 各質問に対する回答は、特にことわらない限りもっともあてはまる内容の番号を一つだけ選んで○をつけて下さい。

目白大学	教授	庄司正実
国立武蔵野学院	院長	青木 建
国立武蔵野学院	医務課長	富田 拓

問1 あなたの年齢はいくつですか？ 年齢を記入してください _____ 歳

問2 学校は？

- 1 小学校 2 中学校 3 高校 4 専門学校 5 中学卒業後で無職 6 しゅうろうちゅう 就労中

問3 何年生ですか？ 学年を記入してください _____ 年生

問4 男性ですか、女性ですか？ 1 男性 2 女性

問5 今回、この施設に入所してからどのくらいになりますか？ _____ 年 _____ ヶ月

問6 これまで^{かていさいばんしよ}家庭裁判所から呼び出されたことはありますか？ 1 ある 2 ない

問7

あなたの身近（友達、先輩、知り合い、家族など）で以下のような薬物をやっている人はいましたか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|-----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 2) マリファナ（大麻、ハッパ、ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 5) MDMA（エクスタシー、エックス、Xも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 6) コカイン（クラックも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 7) リタリン（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 8) 睡眠薬（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 9) 精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 10) ブロン薬などのセキ止め液（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 11) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ、脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 12) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |

問8

身近な人で、以下の薬物をやった結果病気や異常になった人がいましたか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|-----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 2) マリファナ（大麻、ハッパ、ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 5) 睡眠薬・精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 6) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ、脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |

問9

あなたは以下のような薬物の使用を誘われたことがありますか？

- | | | | | |
|----------------------------------|----------------------------|----|----------------------------|----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 2) マリファナ（大麻、ハッパ、ハシッシも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 5) 睡眠薬・精神安定剤（病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 6) 危険ドラッグ（脱法ドラッグ、脱法ハーブなども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 7) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |

問 10

あなた自身は以下のような薬物を1回でも使用したことがありますか？

- | | | |
|--|-------------------------------|-------------------------------|
| 1) シンナーやトルエン (ボンド, マニキュアの除光液 ^{じよこうえき} なども含む) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 2) マリファナ (大麻 ^{たいま} , ハッパ, ハシッシも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 3) 覚せい剤 (エス, スピード, シャブも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 4) ガス (ライター用ガス, カセットコンロ用ガスなど) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 5) MDMA (エクスタシー, エックス, Xも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 6) コカイン (クラックも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 7) リタリン (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 8) 睡眠薬 ^{すいみんやく} (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 9) 精神安定剤 ^{せいしんあんていざい} (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 10) ブロン薬などのセキ止め液 (病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 11) 脱法ハーブ ^{だつぽう} (脱法ドラッグ ^{だつぽう} , 危険ドラッグなども含む) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 12) その他の薬物 | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |

問 11

施設に入る前, あなたが以下のような薬物を手に入れることはどの程度難しいことでしたか？

- | | | | | |
|---|------------------------------------|--|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1) シンナーやトルエン | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 2) マリファナ
(大麻 ^{たいま} , ハッパ, ハシッシも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 3) 覚せい剤
(エス, スピード, シャブも同じ) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 4) ガスパンのためのライター用ガス・
カセットコンロ用ガスなど | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 5) 睡眠薬 ^{すいみんやく} ・精神安定剤 ^{せいしんあんていざい}
(病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |
| 6) 危険ドラッグ
(脱法ドラッグ ^{だつぽう} , 脱法ハーブ ^{だつぽう} なども含む) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ |

問 12 施設に入る前，以下の薬物を使うことをどう思っていましたか？

- 1) シンナーやトルエン **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
3 かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 2) マリファナ **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(^{たいま}大麻，ハッパ，ハシッシも同じ) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 3) 覚せい剤 **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(エス，スピード，シャブも同じ) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 4) ガスパンのためのライター用ガス・
カセットコンロ用ガスなど **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
3 かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 5) 睡眠薬・精神安定剤 **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(^{すいみんやく}睡眠薬 ^{せいしんあんていざい}精神安定剤)
(病気治療以外の目的で) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった
- 6) 危険ドラッグ **1** すべきではないと思っていた **2** 少々ならかまわないと思っていた
(^{だっぽう}脱法ドラッグ，^{だっぽう}脱法ハーブなども含む) **3** かまわないと思っていた **4** 特に考えたことはなかった

問 13 入所前から以下の薬物使用が法律で禁止されていることを知っていましたか？

- 1) シンナーやトルエン **1** 知っていた **2** 知らなかった
- 2) マリファナ (^{たいま}大麻，ハッパ，ハシッシも同じ) **1** 知っていた **2** 知らなかった
- 3) 覚せい剤 (エス，スピード，シャブも同じ) **1** 知っていた **2** 知らなかった
- 4) 危険ドラッグ (^{だっぽう}脱法ドラッグ，^{だっぽう}脱法ハーブなども含む) **1** 知っていた **2** 知らなかった

問 14 この施設に入る前，お酒（アルコール類）やタバコをどのくらいやりましたか？

- 1) お酒について
1 飲んだことはない **2** 1年で数回 **3** 月2-3回 **4** 週に2-3回 **5** ほぼ毎日
- 2) お酒はいつ頃からやりましたか？（いずれかに○印をつけてください）
1 小学校 **2** 中学校 の_____年生頃から

(問 14 のつづき)

3) タバコについて

- ① 吸ったことはない ② 1年で数回 ③ 月2-3回 ④ 週に2-3回 ⑤ ほぼ毎日

4) タバコはいつ頃からやりましたか？ (いずれかに○印をつけてください)

- ① 小学校 ② 中学校 の_____年生頃から

5) 未成年者のタバコ (喫煙) をどう思っていましたか？

- ① 法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた
② 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた
③ 法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた

シンナー遊びについて

問 15 施設に入る前、最もしていた時で「シンナー遊び」をどのくらいしていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1, 2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 16

「シンナー遊び」をしすぎたり繰り返したりすると、下のようなことがおこることがあります。「シンナー遊び」をする前 (したことがない人は施設入所前)、「シンナー遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 急性中毒死 (吸っていてそのまま急に死ぬこと)
② 精神病状態 (何も無いのに物が見えたり声が聞こえたりする幻覚、誰もいないのに自分が見られているとか自分が噂されていると思いきなりする妄想がでること)
③ フラッシュバック (薬を止めてしばらくたつのに幻覚や妄想がでること)
④ いずれも知らなかった

問 17

「シンナー遊び」の結果、上記のような精神病状態 (幻覚や妄想) やフラッシュバックなどを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。(もともと「シンナー遊び」をしていない人は③を選んでください)

- ① 精神病状態 ② フラッシュバック ③ 「シンナー遊び」はしたことがない

ガスパン遊び（ガスの吸引）について

問 18 施設に入る前、最もしていた時で「ガスパン遊び」をどのくらいしていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1, 2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 19

「ガスパン遊び」をすると精神病状態（幻覚や妄想）や急性中毒死をおこすことをガスパン遊びをする前に（したことがない人は施設入所前）知っていましたか？「ガスパン遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態 ② 急性中毒死 ③ いずれも知らなかった

問 20

「ガス」を使った結果、精神病状態（幻覚や妄想）を体験したことがありますか？

- ① ある ② ない ③ ガスパンは使ったことがない

大麻（マリファナ、ハシッシ、ハッパ）について

問 21

大麻を吸う前（使ったことがない人は施設入所前）、大麻についてあなたはどのように思っていましたか？

- ① 大麻は知らなかった ② 関心がなかった
③ 見てみたかった ④ 試してみたかった

問 22

施設に入る前、最もしていた時で大麻をどのくらい吸っていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1, 2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 23

大麻を吸うと精神病状態（幻覚や妄想）をおこすことを大麻を吸う前に（したことがない人は施設入所前）に知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった

問 24

大麻^{たいま}を吸った結果、精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}（幻覚や妄想）を体験したことがありますか？

- ① ある ② ない ③ 大麻^{たいま}は使ったことがない

覚せい剤（スピード、エス）について

問 25

覚せい剤（スピード、エス）を使う前（使ったことがない人は施設入所前）、覚せい剤についてあなたはどう思っていましたか？

- ① 覚せい剤は知らなかった ② 関心がなかった
③ 見てみたかった ④ 試してみたかった

問 26

施設に入る前、最も使っていた時で覚せい剤（スピード、エス）をどのくらい使っていましたか？

- ① したことはない ② 今まで1、2回くらい ③ 数回以上した ④ ほとんど毎日

問 27

覚せい剤によって精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}やフラッシュバックが起こることを覚せい剤を使う前（使ったことがない人は施設入所前）知っていましたか？覚せい剤でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② フラッシュバック ③ いずれも知らなかった

問 28

覚せい剤を使った結果、精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことすべてに○をつけてください。（もともと覚せい剤を使っていない人は③を選んでください）

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② フラッシュバック ③ 覚せい剤は使ったことがない

危険ドラッグについて

問 29

危険ドラッグをすると精神病状態^{せいしんびょうじょうたい}や急性中毒死^{きゅうせいちゅうどくし}をおこすことを知っていましたか？知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態^{せいしんびょうじょうたい} ② 急性中毒死^{きゅうせいちゅうどくし} ③ いずれも知らなかった

